

第9次南極観測隊にインタビュー



いしざわ かおる
石澤 薫さん

プロフィール

1923 年樺太生まれ。大連市立実業学校電気科卒。
文部省電波物理研究所（電波研究所の前身）勤務、電離層の観測研究に従事。
第5次南極観測隊夏隊に参加。
第9次隊参加時、電離層担当。昭和基地内郵便局長を兼務。
その後、山川電波観測所長・実験用衛星の実験実施本部、宇宙通信部・ETS—V
／EMMS（移動体通信衛星）計画本部副主幹を歴任。（昭和62年退職）

**第9次隊南極観測隊に参加したきっかけを教えてください。
また、南極ではどんなお仕事をしたのですか？**

電波研究所では電離層^{でんりそう}の観測研究と高精度観測機^{こうせいどかんそくき}の開発に従事してきたことから第10次観測隊・越冬隊員の推薦を受けた。南極観測では、これまで電波研究所から電離層観測隊員2名で対応してきたが、第9次隊から1名に削減となった。

第5次夏隊員の経験から、繰り上がって第9次隊・越冬隊員に変更された。

昭和基地での主な業務は、極地（高緯度）における地上約100km～600kmの間の電離層を観測し、電子密度の分布とその変化を調査研究した。

また、オーロラレーダーの観測では、オーロラ帯の直下に基地が存在することから、オーロラ発生時の微細なる電子密度を調べ、構造の^{かいめい}解明に^{きよ}寄与し、リオメーターの測定では、電離層の吸収を解明した。

VLFの測定では、VLFの標準電波の受信から、遠距離における電波伝播^{でんぱ}の^{きよ}解明に寄与した。

極点旅行について、印象に残っていることはなんですか？

南極点調査旅行隊が昭和基地を出発して間もなく、旅行隊の遠藤隊員が雪氷調査中に掘削機^{くっさくき}に巻き込まれ、左腕の複雑骨折で基地に戻って来た。この時の雪上車のジャイロシンコンパスが故障し、旅行隊に帰ることが困難になった。早速、回路を調べた結果トランスの不良と判明、予備が基地に無く、電力計のトランスを代用した。雪上車は無事に旅行隊に帰ることが出来た。

旅行隊が南極点に近づいた頃、「送信機が故障で、南極点到達の吉報を日本へ連絡することが出来ない。」と増田隊員が困っていた。重いシンクロスコープを持って、基地近くの小島にある送信棟に向かい、送信機を調べた結果、「半導体の不良」と判明した。当時の送信機には初期に開発された半導体を使用している為、高温や低温に弱く、故障の原因になることが多い。送信機の回復から、旅行隊の南極点到達の報を日本へ無事連絡することが出来た。